

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 89 号

令和7年3月発行
(2025年)

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次／北里祭風景	P.1	会員近況報告	P.5
高橋明義先生法人副理事長就任挨拶	P.2	就職ガイダンス	P.6
菅野信弘前学部長近況報告	P.3	九州沖縄地区親睦会報告／高橋明義先生副理事長就任お祝い会	P.7
準会員活動報告	P.4	お知らせ	P.8



2024年11月2日北里会 仮装コンテスト



北里祭 出店 (海洋潜水部)



2024年11月2日北里会 仮装コンテスト

北里研究所副理事長・常任理事就任のご挨拶

北里大学名誉教授

高橋 明義

(水産学部5期生)

1. 役職



学校法人北里
研究所の第22期
理事会が浅利
靖氏（医学部

1986年卒）を理事長として
2024年7月に発足いたしました。
学長は砂塚敏明氏（薬学部
1982年卒）であり、理事長と
学長を本学卒業生が担うのは柴
忠義理事長・学長（2003（
2012）以来のこととなります。
私は副理事長ならびに人事担当常
任理事を仰せつかり、役員として
主に白金キャンパスのプラチナタ
ワーで執務しております。本学部
卒業生が常任理事の役職に就くのは、
第21期理事会の朝日田卓氏（海
洋生命科学部教授）以来となりま
す。

現行（2025年3月時点）の
寄付行為（会社でいう定款）によ
れば、「常任理事のうち1人を副
理事長として置くことができる」
ものであり、「副理事長及び常任
理事は、理事長を補佐し、法人業
務を分掌する」役職です。今回こ

の項目が北里史上初めて実際に運
用されて副理事長が存在すること
になりました。これまでは多忙な
理事長に代わって各種行事等に出
席することが主な役目でしたが、
私立学校法の大改正に伴って抜本
的に変わる本法人の寄付行為（本
年4月1日施行予定。会社では定
款）では責任が現在に比べて遙か
に重くなります。新たな法的環境
の下で北里の運営に邁進すること
になるため、気持ちを引き締めて
おります。

2. 役割

人事担当常任理事の分掌は採
用、退職、昇任、異動、給与、賞
与などの決裁やハラスメント対策
があります。昨年7月以来「北里
の事務職員はよくやっている」こ
とをこれまで以上に実感していま
す。水産学部・海洋生命科学部の
教員時代にも、三陸・相模原キャ
ンパスにおいてこのように感じて
いましたが、回ってくる決裁書を
精読しつつ、各種取決め事のもと
で教員が教育・研究活動に励むこ
とができるのは職員の不断の働き
があつてのことと、再認識してお
ります。

副理事長・常任理事の最大の
役割は、教員と職員が個人として
も組織としても力を存分に発揮で

きるように、縁の下の力持ちとし
て舞台を整えることであると認識
しています。世の中は混んとし
た不確実性の時代ですが、視点を
変えれば飛躍の可能性の宝庫とも
いえます。その可能性を的確にと
らえ、本法人がこの時代を乗り切
り、未来永劫、より堅強で安定的
な活動が継続できるよう、個々の
教職員の叡智を結集するための仕
組みづくりや、意識の醸成が大事
な役割であると考えます。相互の
交わりが促進されて一体となり、
よりよい北里が構築されるための
黒子であることを心がけています。

3. 報恩

私は水産学部卒業生として初め
て本学部の教員に採用され、さら
に初めて教授に任用されました。
入学から卒業、まですべての期
間を北里に所属しておりました。
雪がちらつく1976年4月4日
日曜日の相模原キャンパスでの入
学式は、今でも記憶に鮮明に残っ
ています。それ以来育ててくだ
さった教職員の皆様、交流のあつ
た仲間たち、下宿の大家さんら（家
族は言わずもがな）への深い感謝
の念に堪えません。

現役時代を振り返ると、北里大
学の四つの建学の精神のうち「開
拓」「叡知と実践」「不撓不屈」を

少なからずよりどころにして活動
してまいりました。研究者に必要
な資質として、着実に証拠を積み
あげる粘り強さと発見のための創
造力があります。着実性には真摯
な態度が要求され、創造力には常
識を打ち破る発想や運が必要で
す。私の独自の表現では困難に直
面したら「危ない石橋はたたき壊
して前進」する勇氣もしくは鈍感
さが必要であり、学説提唱の第一
歩は「妄想を仮説に昇華」させる
ことであり、成果は突然「一寸先
は晴れ」のごとく到来するものと
なります。これらには上記の3精
神に通じるものであります。

学説の提唱は研究者の目標の一
つであり、そのためには独自の成
果にもとづく主張が必要です。建
学の精神を念頭に活動すれば、研
究者としての目的の達成に近づき
ますが、その活動を後押しする拠
りどころとなるのが学生時代から
よく言われてきた感謝の気持ち、
すなわち「報恩」であります。現
在の私の活動内容は北里の運営で
す。これまでの研究活動で受けて
きた恩恵に対する溢れんばかりの
感謝の気持ちを注ぎ込んで、より
良い北里のために尽くすことが役
員としての活動の基本ととらえて
います。

4. 会報

三水会会報は会員が相互に情報を共有するための大事な印刷物です。ホームページ（HP）などの媒体もありますが、それには会員自らが主体的にクリックして閲覧することが必要です。冊子体の会報は自宅に届くので、とりあえず開封して取り出してページをめくれば簡単に三水会の活動や学部の様子などに触れることができま

す。定番記事は総会の決議事項、新任退任教員の近況、研究室紹介、各種行事の案内と報告、そして本稿のような挨拶となります。以上を増して重要な記事は会員の活動を伝える内容です。それには同期会、クラブOB会、研究室同窓会などの集会、言い換えると「飲み会報告」みたいなものがあります。一団体10万円を上限に、10名以上の集会に対し会員1名あたり1,000円の助成が受けられます。その場合は、活動内容の三水会会報への寄稿が必須とはなりません。この制度を利用して活発に会合を開き、そして皆さまのお力で会報を充実させてはいいかがでしょうか。詳細は三水会HPから「三水会について」↓「規約・助成金申請」と進み、「集会助成金の申請及び交付」をご覧ください。

余談ですが昨年7月に新札が発行されて以来、学生はたとえば会費の3千円を「三学祖」と呼んでいるらしいです。従って本助成の上限は「百学祖」となります。

5. 期待

今般の北里研究所の役員就任を期に、北里大学全学同窓会の常任理事（企画担当）と理事を退きました。北里研究所の副理事長・常任理事としての役目に同窓会担当があり、その上、全学同窓会の常任理事も兼ねることは、親会社の重役が関連会社の重役を兼ねるようなものであり、その自立性を損ないかねません。また全学同窓会を親会社とするならば三水会は子会社になるので、余計な圧力が全学同窓会に及ばないように、三水会の会長と理事も辞任いたしました。これで迷惑をこうむったのは三水会の副会長をはじめとする役員の方々です。それぞれの思いは様々でしょうが、新しい会長を頂いて新しい発想の同窓会活動が営まれることを期待いたします。末筆ながら三水会会員の皆様並びに三水会の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

退職後の近況

北里大学海洋生命科学学部

前学部長

菅野 信弘



3か月遅れになりましたが、2024年の6月で無事に定年退職

を迎えることが出来ました。退職に当たりましては三水会の皆様からも温かいお気持ちとお祝いを頂きました。改めて心より御礼申し上げます。昭和59（1984）年4月の入職でしたので40年と3カ月の勤務となりました。このうち27年間は三陸キャンパス、残りの13年と3カ月を相模原キャンパスで過ごしたことになります。やはり印象深いのは研究に明け暮れた三陸キャンパス時代でしょうか。あの時代、あの場所だったからこそその生活だったとつくづく思い返してしまいます。一方、相模原キャンパスでの十数年間は学部のキャンパス移動とそれに伴う学部体制の再構築、震災復興関係事業、特に最後の10年間は学部長としてコロナ禍対応、学部創立50周年と、何をこうしたいというよりは降ってくる課題に対応していただけのような気もしています。

大失敗することもなく過ごせたことは何よりでした（将来、あの時ああしておけば、という事案はできそうですが…）。これもひとえに三水会の皆様からのご協力とバックアップのお蔭であったと今更ながらに感謝しております。

さて、12月に入って間もなく本原稿の執筆依頼を頂きましたが、丁度、『学部だより51号』の原稿を脱稿したばかりの時で、その中でも近況について簡単に触れてしまいましたので、どうしようかと悩んでしまいました。そもそも、退職後は7月いっぱい相模原で引越し準備と称してプラプラしておりましたし、8月に山形の実家に伴う住所変更などに追われつつ、来年からの「晴耕雨読」的生活の本番に向けて準備をしたくらいで、近況というほどのものはないというのが実際のところなんです。そうこうしているうちに12月に入って雪もちらつきだし、既に冬眠モードの今日この頃です。例年ですとこの時期は、卒論研究も大詰めで年明けの論文作成と卒論発表に向けた準備が始まっていたかと思えます。これに入試業務も加わり1月から3月までの1年の中で一番タフな時期に向けて助走を始

めていた頃でしょうか。それに比べ、今度の年末と正月は死ぬほどゆつたりと過ごせそうです。

先にも触れたように退職後の目標は「晴耕雨読」的生活です。

8月 — 農機具修理と草刈り —

山形に戻ってからの最初の仕事は2〜3年放置されていた農機具の修理でした。まあ、趣味の域の農業の真似ごとをするにしても、農機具がないと体力的にきつい歳ですから。ただ、バッテリー上がりはかわいい方で、エンジンのガソリンタンクは錆び付いているわ、キャブレターは詰まっているわ、燃料は漏れるわ、クラッチケーブルは固着して動かないわ、でかなり楽しませていただきました。

結局、トラクター、管理機（昔は耕運機と呼んでいましたが今時は管理機と言うらしい）、運搬機、草刈り機、チェーンソウなどを自力で復調させることができたわけですが、研究に使っていた分析機器の修理に比べれば大雑把でOKかつアナログなところには助けられました。次に取りかかったのが春から伸び続けた雑草の始末でした。相模原キャンパスでも緑地の草刈りが頻繁に行なわれていますが、畑の場合は肥料を撒いている

わけで雑草の伸び具合も半端ではありません。来年はどうしてやるかと今から策を練っているところです。

9月 — 種蒔き —

9月に入って漸く本腰を入れて畑仕事を始めました。畑の準備はトラクターと管理機を使えばあっという間なわけで、修理に費やした時間の長さとの不釣り合いに「なんだかなあ」という思いでした。まあ、実験も計画が8割、実施が2割と考えると似たようなものではないでしょうか。そうこうしているうちに秋野菜の種を蒔くにはギリギリのタイミングとなり、時期を逸してしまつたものもあつて、季節ごとに必要な作業をしていくことの大切さを痛感させられました。

10月 — ツーリング再開 —

畑仕事としては朝晩の水撒き程度で、ほーっと作物が育つのを待つておりましたが、どうも追肥が必要だったようです。そもそも放置されていた畑からのスタートだったので雑草の栄養満点だろうと踏んでいたのですが、とりあえず時間に余裕ができ、趣味のツーリングを再開出来たのはこの頃です（この記事をお読みの一部の方はご存知のことですが、予期せぬ

ことが起こりまして、ツーリングどころではなくなつてしまったのですが）。

11月 — 実りと冬支度 —

ニンニクとタマネギの植え付けから始まり、イチゴ苗の定植、ニラなどの多年草の冬仕度と、春に向けた畑仕事はこの頃です。9月に植えた秋野菜も無事に育つてくれました。11月の後半からは積雪に備えて庭木の雪囲いを始めましたが今冬はどれだけ積もるやら。ここ数年はたいして積もっていないようなので、出来れば無駄な仕事になつてほしいところです。相模原にいる頃は12月に入っても余裕でツーリングが出来たのですが、この辺りでは11月がラストシーズンのようです。目下の悩みごとは、天気の良い日は畑仕事かツーリングか、これも来年の課題です。

12月 — 冬眠 —

12月に入つてすぐに雪が降りました。今のところ積もつては消えてを繰り返しています。積雪量的には最大でも10cm程度です。相模原では10cmも積もると大騒ぎでしたが、この辺りでは全く平常運転です。とは言え、さすがに畑仕事はもう無理ですので、庭の枯葉を

掻き集めて腐葉土作りをするのが関の山です。除雪機の調子も整えましたので、ここから2月まで長い「雨読」モードに入ります。来年の春に備えてじっくり計画を練りたいと思います。

来年は「晴耕雨読」的生活の本番です。

🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸
準会員助成金の交付に係る活動内容

白川 和希
(2024年3月卒業)

皆様、初めまして。海洋生命科学部2024年卒業生の白川和希と申します。現在は一般企業に勤めております。私は2023年9月12日から12月12日までの3ヶ月間、卒業論文の研究調査のため、マレーシアのペナン島で生活し、クラゲの出現動態について調査を行いました。



卒業論文のためにペナン島に留学していましたが、研究室に配属された当初、海外に行くことは全く考えておらず、異なるテーマを研究しようと考えていました。しかし、研究テーマを決める際に三宅教授から「海外でも研究ができる」というお話を伺い、これが大学生のうちに留学する最後のチャンスだと思い、海外での研究に対する意欲を伝えました。その後、話はすぐに進み、4月末には留学が決定しました。海外留学は人生で2回目だったので、海外に行くことに対する抵抗はありませんでしたが、TOEICのスコアが500を超えていなかったり、英語に触れる機会が少なかったりと、英語力に不安がありました。そこで、近くの英会話カフェや英語のニュース記事を読むなどして、英語に触れる機会を増やし、留学に備えました。

ペナン島に行く前には、研究内容の調査や研究方法の確認、さらには英語の図鑑を読むなどの準備をしていました。日本はまだ夏の気候が続いていたので、熱帯地域であるペナン島に到着しても気温差はあまり感じず、むしろ快適なスタートを切ることができました。最初の1週間は、教授に同行していただき、現地の研究施設の

案内や採集方法について教えていただきました。研究施設には、私を含めて地元の大学から来ているインターン生が5、6人、また先生方が5人ほどいらつしやり、研究の合間におしゃべりをしたり、食事を共にしたりと、充実した時間を過ごしました。調査は、平日の午前中にプランクトンネットを曳き、午後は採集したクラゲの同定を行うという流れでした。

宿泊先は、最初の1ヶ月は研究施設の方に手配していただいたホテルに泊まり、その後の2ヶ月はインターン生に教えてもらったサイトでマンションを借りて生活しました。大型スーパーが近くになったため、毎週近隣の街に出て買い物をし、自炊をしていました。それでも月曜日にはナイトマーケットで現地の食べ物を楽しんだり、休日にはマレーシア料理を味わうよう心掛け、短い時間ながらも現地の文化を堪能しました。マレーシアの料理は、基本的に辛いものが多いため、最初は苦手でしたが、帰国する頃にはその辛さにも慣れ、逆に美味しく感じるようになりました。



特にオスメは「ナシゴレンカンボン」という、ナシ

ゴレンに小魚が加わった料理です。物価も日本に比べて非常に安く、1食100円程度で食べることができました。

また、マレーシアでは多くの野生動物にも出会うことができました。特にオオトカゲは、川や街中の水路で優雅に泳いでいるのをよく見かけました。そのほかにも、郊外の街中ではサルやリス、海ではカワウソを見かけることが多く、マレーシアがまさに生き物の楽園であることを実感しました。

今回の留学を通して、研究テーマだけでなく、マレーシアの文化や生活に触れることで新しい発見をし、私の視野がさらに広がったと感じています。本当に貴重な経験となりました。皆様ももし海外に行く機会があれば、ぜひ積極的にチャレンジしてみてください。

会員近況報告

海洋生命科学部海洋生命科学科
水圏生態学研究室(2013年卒業)

戸倉 溪太



「お父さんは釣りが好きでしょう?」
私の人生で何度も言われた

ことがあるこの質問。幼いころは全く気にしていませんでしたが、どうやら溪流の「溪」を名前に使うのは珍しいようです。これまで私はこの名前の「溪」に何度も助けてもらいました。採用面接や仕事での大事な会議、名刺交換では大活躍でした。兵庫県出身の父「潤一郎」は私が生まれる前から釣りが好きで、特に溪流でフライフィッシングが得意です。そんな私が生まれた0歳の誕生日には「Kaita」と名前の入ったフライ用の釣竿。ちなみに2歳上の姉「遥香」にも「Haitaka」の竿があるとか。そんな釣竿の存在を知ったのは卒業後、就職して3年経った時でした。水族館の飼育員に憧れて入学した北里大学では水圏生態学研究室で三宅先生にお世話になりました。卒業後は運よく新潟市水族館「マリnPia日本海」で臨時職員として採用してもらい、翌年からは公益財団法人ふくしま海洋科学館「アクアマリンふくしま」で臨時職員を経て正社員として採用してもらいました。新潟でも当時の館長に可愛がっていただき、ふくしまでも面接時には名前の「溪」



に気づいてもらいました。名前の縁もあつてかふくしまでは淡水魚や水生昆虫などを担当することが多く、ありがたいことに県の調査員としても登録していただきました。そしてその頃、初めて父から名前入りの釣竿の存在を覚えてもらいました。まさか生まれて25年経って誕生祝いの釣竿が出てくるとは驚きでした。展示生物の採集として、また、趣味としてもニッコウイワナとヤマメを狙って竿を持ち歩きましたが、なかなかフライを操るのは難しく、残念ながら釣った魚のほとんどが餌釣りでした。それでもこの竿で仕事をしているということは大変誇らしく思えました。昔は野球と生き物が好きな普通の少年でしたが、まさか名前通り（父の迷惑通り？）の大人になるとは父自身も驚きだったのではないのでしょうか。11年ほど水族館の業界にいた後、現在は縁があつて水産庁で勤務しています。これまでの生き物を扱う仕事から漁師さんを守る仕事をしていきます。そのうち大船渡やいわき、新潟に行く機会もあると思うので楽しみます。とはいえ33歳からの転職は甘くなかったです。水産関係とはいえ全く別の職種への転職という事で、正直大変苦労しています。ただ、飼育員時代から漁

師さんや漁協の方と関わる事が多く、今まではお世話になりっぱなしでしたが、これからはこの人達を支える仕事ができると思うと大変やりがいを感じます。私は大変恵まれたことに、三宅先生や水族館、仕事でお世話になった皆様をはじめ、これまでたくさんの方々に助けてもらいました。これまでもお世話になった方々や業界に少しでも貢献できるように勉強し、これからも水に携わっていきたいと思います。

三水会就職ガイダンス報告

28 F 三水会理事

安孫子 信吾

2024年10月17日に、三水会主催で海洋生命科学部3年生のための就職ガイダンスを実施しました。今年度よりタイトルを「未来創造授業」失敗と成功から学ぶ就活ヒント」に改め、従前の講義形式から、講師として登壇頂く卒業生とともに学生の島を作り、双方の対話の中で自らの経験や学生の悩



みに答える内容とし、時間を区切り、学生が島ごと次の講師の所に移動頂く形式といたしました。また、育児で来校が叶わない講師1名においては、オンライン会議ツールを活用しPCの画面越しに学生と対話頂く試みも実施しました。

今回講師として、1982年入学（12期）北原 融さん（株）よみうりランド（水族館）、1992年入学（21期）吉岡 和幸さん（株）フェアトレード（商社）、2006年入学（35期）小泉 龍郎さん（パシフィックシステム（株）（IT））、2009年入学（38期）戸倉 溪太さん（水産庁）/2018年入学（47期）河野 未侑さん（水産庁（官庁）の4分野計5名の卒業生の皆さんがご参集下さり、天野学部長、水澤先生のご協力、花田事務長をはじめとした学生課の皆さんのご尽力により、当日は例年を大きく上回る約60名もの学生が参

加、それぞれの分野で活躍されている講師の発言に真剣な眼差しで聞き入り、自らの言葉で質問する様子を各島で見ることが出来、同窓会の知見、人材が活かされた会になったと感じております。参加された学生には、例年好評の内藤三水会会長代行が栽培、収穫された、「こしひかり」(黒姫夕霧米「ひめゆりか」)をお土産にお渡しいたしました。

なお、今回のガイダンスの事前

掲示ポスターは、学生の目に留まるキャッチーな内容とするべく理事内で検討し、

ちゃんと

G (自己ア)

P (ピールでき)

T (てる?)

としたのですが、本実施報告もChatGPTにてアウトラインを作成し、お届けしております。三水

会は、今後も大学・三陸（故郷）の発展に寄与を目標とし活動を続けてまいります。会員の皆様のご賛同、ご支援があつての会となります。引き続き、ご理解、ご協

力を賜りたくよろしく願っています。

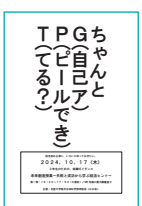
です。

です。

です。

です。

です。



掲示ポスター

2024年度三水会 九州沖繩地区親睦会報告

水産食品学科14期

大坪 孝志

まだ2月の初旬ですが、やはり南国の島・沖繩県。空港を降り立った瞬間、感じる空気が本土とは違います。1月中旬には桜（琉球寒緋桜）が本島北部より咲き始め、那覇方面へと南下していき、青空の下ピンク色の花が春の訪れを告げます。

2月8日に開催予定の「三水会九州沖繩親睦会」の情報を、昨年9月発行の三水会会報で知り、早速スケジュールを確認。そして、



LCの安い航空券を確保しました。沖繩愛に目覚めてしまった私にとって、来沖の機会に海洋生命科学部の同窓生の皆さんとお会いできることは、より充実した訪問となります。

さらに今回は、鹿児島県南さつま市でタツノオトシゴ養殖に取り組んでいらつしやる水産増殖学科19期、加藤伸さんの講演を聴けることも楽しみの一つでした。会場は那覇市内の「バイキング居酒屋リオ」で午後6時から行われ、県内の皆さんに加え、県外からの参加者8名を含め13名の卒業生が参加されました。

加藤さんのご講演では、タツノオトシゴにまつわるユニークなお話に加え、自然環境問題を中心とした深い内容が語られ、とても興味深く勉強になる時間でした。その後の親睦会でも、参加者同士の交流が盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことができました。

最後に、現在は北海道、関西、九州沖繩で三水会の地区親睦会が開催されていますが、例えば東北地区、北陸地区、四国中国地区でも三水会の親睦会を開催

最後に、現在は北海道、関西、

九州沖繩で三水

会の地区親睦会

が開催されてい

ますが、例えば

東北地区、北陸

地区、四国中国

地区でも三水会

の親睦会を開催

できないものか、全国の三水会会員の皆様に提案させていただきたいと思います。

高橋明義先生、 副理事長就任お祝いの会

FF 7期 藤田 伸治

おめでとうございます。このたび、昨年まで副学長を務められていた高橋明義先生が北里研究所副理事長に就任いたしました。透き通った青空のもと、10月12日にグランドプリンスホテル高輪で祝賀会が催されました。会は旧水産学

部分子内分沁学研究室の有志により企画されました。遠方からは川内浩司先生もお越しになり、ご祝辞を頂きました。北里大学の理念である「開拓報恩・英知と実践・



高橋先生ご夫妻

不撓不屈」を体現されている、海洋生命科学部から副理事長に就任するということが、いかに大変で重要な事であるかを簡潔に楽しくお話していただきました。会場は懐かしい研究室の仲間がつどい、高橋先生との昔話に花が咲き盛況な会となりました。会に参加できなかった方からのメッセージも披露され、高橋先生の人柄を慕う同窓生や学生が多くいるなあと感じた次第です。くじ引きのゲームなども用意されワイワイとにぎやかなお祝いの会となりました。

最後に、会を開催するにあたり、企画に協力いただいた及川さん安孫子さん、運営に協力いただいた高坂さんその他ご支援いただいた方に感謝申し上げます。



記念品を片手に



恩師、川内浩司先生と

〃 掲 示 板 〃

■ 海洋生命科学部同窓会 三水会会員登録データ変更フォーム

ご卒業生の皆様の会員登録データをこちらのフォームから修正・追加出来るように致しました。項目を入力し、送信下さい。

なお、当該フォームは株式会社フューチャースピリッツの「フォームメーカー」というサービスを利用しています。



■ 2025年度三水会定期総会のご案内

下記により2025年度三水会定期総会を開催します。

代議員はもとより一般会員も傍聴できますのでご参加ください。

開催日時：2025年5月17日（土）午後3時～（予定）

開催場所：北里大学白金キャンパス・・・講義室

（注）開催場所は大学の都合により変更される場合がありますので、ご参加の方は下記の三水会事務局までご確認ください。

TEL：0120-873-135 <http://kitasato-sansuikai.jp/>

- 議 事
- 1 2024年度事業報告及び収支決算報告
 - 2 2024年度監査報告
 - 3 2025年度事業計画及び収支予算
 - 4 後任理事候補者推薦
 - 5 その他

*総会終了後、講演会を予定しています。

■ 同期会、クラブOB会、研究室同窓会等、集会を開催予定の方へ

三水会では正会員の同期会、クラブOB会、研究室の同窓会等を開催される場合、下記の助成を行います。

【会員管理システム利用申請書】を事前に提出すると、審査の結果、名簿の一覧やDMラベルの提供が受けられます。（DMラベルは一部有料の場合があります。）

【三水会同期会等助成金申請書】を事後に提出すると、一団体100,000円を上限に、10名以上の集会に対し会員1名あたり1,000円の助成が受けられます。（交付は審査の上、1団体・年度内1回までの利用とする。）

同期会、OB会等の集会情報は、三水会会報や三水会HPに告知掲載することができます。（申し込み等、詳細につきましては三水会事務局までお問い合わせください。）

助成金の交付を受けた団体等は、交付後活動内容を三水会会報に寄稿するものとする。

詳細等、申込みにつきましては事前に下記、三水会事務局までご通知ください。

・E-mail：information@kitasato-sansuikai.jp

・TEL：0120-873-135

■ 年会費納入のお願い

北里大学同窓会は、会員の皆様の会費収入で運営されています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。卒業10年後（11年目）から年会費制度が実施されています。

年会費納入の方は、北里大学同窓会会報に同封の振込用紙、または下記まで納入下さいますようお願い致します。（必ず会員番号とお名前を明記してください）※会員番号が不明な方は卒業年・学部を、または同窓会事務局までお問い合わせください。

口座番号（ゆうちょ銀行）00100-8-574703

他の金融機関からお振込の場合 銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 預金種目：当座 店名：〇一九店（ゼロイチキユウ店）口座番号：0574703

加入者名：北里大学同窓会年会費口 振込金額 1年分5,000円 5年分20,000円

編集後記

2025年は数年ぶりに各地で大雪のニュースが飛び交い、ようやく寒気がねけたと思ったところで三陸の大火のニュースに触れることとなりました。各地の災害の被害に遭われた方々にこの場をお借りしてお見舞い申し上げます。

新しい年を迎え新年度に向けて、三水会では若い人たちの同窓会活動への参加を促していきたいと考えております。準会員である学生の方々へは同窓会活動のアピールのみならず総会をはじめいろいろな場面で参加していただけるような取り組みを重視していきたいと考えております。正会員の皆様も率先して三水会の活動にご参加いただき学生諸君も含めた幅広い世代のつながりを作っていただければと思います。また、良いアイデアがあればぜひ教えていただきたいと思います。